

素敵な看護師に なるためには

岡崎市立看護専門学校校長
林 隆一 氏



教育随想

内科医の私が三年前から校長を務めるのは、昭和四十四年に開校し、来年創立五十周年を迎え、一五〇〇名を超える卒業生を輩出する岡崎市立看護専門学校です。

看護師資格を得るには国家試験に合格する必要があります。高等学校を卒業後三年間本校で学び、国家試験受験資格を得ることができます。看護師は患者さんの最も身近でその人らしい生活を支える専門職です。医学や看護学だけでなく、人間や健康生活を理解する多くの学科を履修し、それらを実際の臨地実習で学んでいます。

近代看護の母であるナイチンゲールは「看護とはサイエンスであり、アートである」と述べています。サイエンスは看護・医学の知識、アートは人としての尊厳をもち、慈愛に満ちた「感性」で、生への手助けをする技のことです。私は、医療人に最も必要な資質はこの「感性」だと考えてい



平成 30 年 10 月 1 日

10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岡崎市立看護専門学校校長
林 隆一 氏
- この人に聞く…………… 2
Vプレミアリーグバレーボール選手
渡辺 奏吾 氏
- 羅 針 盤 …………… 2
連尺小学校長
田村 康則
- ふれあい…………… 3
翔南中学校
鈴木 啓吾
- 特 集…………… 4
自転車の安全意識を高める
-学校・地域・警察との連携-
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
花崗岩貼りの土止め
(昭和 61 年)
- この本を…………… 8



ます。なぜなら、患者さんに向き合うとき、優しい雰囲気と品位ある所作で接することにより、より信頼関係を築き、相手の気持ちを察し、変化に気づくことで適切なケアに繋ぐことができるところからです。

本校は「感性を培う」を教育理念に掲げ、その一貫として、グループで草花の世話を育てています。また、日本文化に根づく、察する気づく心情のあり方を茶道や歌舞伎鑑賞を通して学び、考える力を育めるよう教科外活動に取り入れていきます。

校長として、日々一人一人の学生を観ていると、学年が上がるごとに

言動や表情、態度が、目標とする看護師により近づいているように感じられます。この学生たちの成長は、臨場の場では得られない喜びであり、私を含め、教職員も刺激を受けるとともに、学び合う存在として育成に力が入ります。

今後も看護師を目指す学生が、地域の保健・医療・介護・福祉の分野で活躍貢献する「素敵な看護師」になれるよう、教職員一同、より一層努めてまいりたいと思います。

(はやし りゆういち)



自分で考える

Vプレミアリーグバレーボール選手

渡辺 奏吾 氏

三メートルを超える高さから鋭角に打ち込まれたアタックの音が体育館に響き渡る。バレーボール教室に参加していた中学生たちは息をのみ、「一流」の姿に目を輝かせた。「中学生は初々しいですね。これからもっとバレーボールが楽しくなる時期ではないでしょうか。うまくなってきたら、試合もどんどん楽しくなると思いますよ。」

一九六センチの長身が自身の強みであるという渡辺選手は、岡崎市出身のVリーガーである。大学時代は、ユニバーシアード日本代表として、世界の舞台で戦った。現在パナソニックパナサーズに所属し、チームは、今季のVリーグを制覇した。

その勝因を渡辺選手はこう語る。「簡単な言葉で言うくと、『チームワーク』です。ミーティングの仕方を変えました。技術的な内容ではなく、チーム内のコミュニケーションを図るための話し合いを重視することで、若手もベテランも自分の考えを言い合える雰囲気になっていきました。パナサーズのチームワークの良さが優勝につながったと思います。」

試合中は、相手チームの情報を共有したり、戦術を確認したりするため、コート内で会話が飛び交う。「がむしゃらに声を出すことが勝ちにつながると思っています。仲間を励ましたり、鼓舞したりする声は大事だと思えますが、戦術的な会話も必要です。チームワークの良さが大切な場面で生きてくるのです。ちょうど僕がチームの中堅くらいに当たります。プレー以外でもチームをまとめられる選手になりたいです。信頼を得られることも技術面と同じくらい大切です。」

現在二十八歳。プロの選手として続けていくためにいちばん大切なことは「自分で考えること」と語る。「高校は選手主体のチームでした。選手同士で話し合ったり、自分が考えたプレーをチーム全体で練習したりしました。このやり方が、私にはとても合っていました。企業に入っ

て、外国人の選手やコーチと一緒に出会います。それが正しいのかはわかりませんが、いろいろ試すことでより良い方法が見つけれられることがあります。他の選手とプレーについて議論を戦わせることもあります。まだまだ学ぶことがとても楽しいし、新しい技術や戦術を身に付けるのがおもしろいですね。」

中学生が、サーブについて質問をした。渡辺選手からのアドバイスは一つのみで、あとは生徒自身に考えさせる。生徒は手のひらの向きを確かめながら、何度も練習する。鋭いサーブが決まり、ガッツポーズを見せた生徒に、渡辺選手は大きくうなずいてみせた。「自分で考えること」を大切にしてきた渡辺選手の思いが表れていた。



氏名 わたなべ 奏吾
生年月日 平成二年七月二十一日
住 所 大阪府枚方市

深い学びの実現

連尺小学校長

田村 康則

「教師は授業で勝負する」とよく言われる。まさにその通りで、学校生活の大半を占める授業が魅力あるものでなければ、子供の毎日の生活自体が輝きを失ってしまふ。

さて、次期学習指導要領実施に向け、「主体的・対話的で深い学び」の中の「深い学び」がキーワードとなっている。「深い学び」とは、具体的にどのような授業を行えばよいのか、それを明らかにしていくことが私たち教師の急務である。

本校では、連尺モデルを通して「深い学び」を実現すべく、授業に際して深い教材研究を行うと共に、「振り返り」で本時の学びの整理に有効に働くような、子供の思考の流れが





アサガオの絆

翔南中

鈴木 啓吾

四月の学級会で、二年一組の級訓が決まった。数ある候補から選ばれたのは、愛が咲く顔と書いて「愛咲顔」。発案したA子は、リーダーに名乗り出るような勇氣こそないが、友達思いでまっすぐな子であった。

その学級会で、A子はか細い声で、「一人一人が互いに思いやりをもって接し、全員が笑顔で過ごせるクラスにしたいです。」

と話した。A子の思いに笑顔でうなづく生徒たち。そして、生徒同士が心でつながる温かい学級にしたいという私の願いも重なり、「愛咲顔」を級訓に掲げ、一年がスタートした。

十月。クラスは、合唱コンクールの最優秀賞を目指して、休み時間も返上し、練習に打ち込んでいた。しかし、地道な練習を苦手とする生徒は多い。なかでもB男である。野球一筋の彼は、体育大会での大活躍から一転、休み時間の練習では、ほとんど立っているだけ。それどころか、周りに話しかけて遊ぶようにな

り、練習の雰囲気は日に日に崩れていった。B男を変えなければいけない。しかし、彼の心に訴え、本当にB男を変えるのは、級訓「愛咲顔」を決めた生徒たちの心だ。そう考え、練習を見守った。

A子は、少しでも練習を早く始めようとキーボードを準備したり、ラジカセを運んだりした。しかし、練習の様子は改善しない。私はA子と二人で話をした。

「全員で同じ気持ちをもってやりたいのには、真面目に練習しない人がいて……。でも、私はパートリーダーじゃないから言えなくて……。」

「あの級訓を考えたとき、みんなはA子の思いに共感してくれたよね。誰よりもクラスのことを考えているA子の気持ちだから、肩書きなんてなくても伝わるんじゃないかな。」

それでもA子の迷いは消えなかった。そして、クラスの士気は、ますます下がっていった。

合唱コンクールが近づいたある日のこと。時間になってもなかなか練習が始まらないので、私は練習をやめて学級会を開くことにした。

「集中して練習したいです。」

「すばやく準備したいです。」

一部の生徒の形式的な言葉だけが滑っていく。危うくそれだけで話し合いが終わりそうになったので、問い返した。

「まだ何にも話し合っていないんじゃないか。心からの気持ちを言えないクラスが団結なんてできるのか。」

しばらくの沈黙の後、重い空気を破って手を挙げたのは、A子だった。

「練習は辛いけれど、我慢して全員で続けなきゃ意味がないと思う。みんながどう思っているかわからないけれど、私はこのクラスで、このメンバー全員で最優秀賞がとりたい。」

涙ながらに語ったA子の思いを受けて、次々に本音が飛び交った。そして、その中で、一人の男子が手を挙げた。B男であった。

「僕です。みんなの足を引っ張っていたのは僕だと思います。歌に自信がないから逃げていたけれど、でも、こんな僕でもみんなに必要としてももらえるなら、一緒に歌いたい。」

A子は少し肩を震わせながら、B男の言葉に合わせてうなずいていた。

後になって知ったことだが、つるを伸ばすアサガオには、「固い絆」という花言葉があるらしい。目標を共有し、思いを共有し、弱さも共有したクラスの勢いは、目を見張るものがあった。休憩のない毎日が心配になるほど歌い続けた。

迎えた本番、その日を締めくくった写真に写っていたのは、最優秀賞の賞状と、それを囲むように咲いた三十四の「愛咲顔」だった。



表れた板書作り」、「子供の思考力を掘り起こす立ち止まりの発問や話し合いを深める切り返し」等を授業研究している。また、研究授業前の事前研究として、作成した学習指導案をもとに、教師が子供役となって授業者が模擬授業を行っている。教師の出はよいか、立ち止まりの発問は適切か、他に有効な支援はないか等の意見交換をし、「深い学び」を指摘している。

私自身は、「深い学び」を「他との関わりを通して自分の考えを広げ深めること」と捉えている。子供の姿として「授業で自分なりの理解を実感し、その後も自ら探求し、次の学びにつなげようとする姿」や「新たに得た考えを他の場面で生かそうとする姿」が見られるような授業でありたいと考える。そのために、私たち教師がやらなければならないことは、「授業」ごとに、子供に育みたい力を明確にし、子供の実態をよく把握した上で、それを踏まえた授業づくりを行う」ことであると思う。

今後、個々の子供がよりよい解法へと向かうことができるような学習を積み重ね、「深い学び」に迫る授業を展開していきたいと考える。



自転車の安全意識を高める

ー学校・地域・警察との連携ー

登校の様子（六ツ美中）

小中学生の自転車に関わる事故

全国の小中学生の状態別死傷者数（H25～H29 5年の合計）

	歩行中	自転車乗用中	自動車乗車中	二輪車乗車中	その他	合計
小学生	27,264人 27.5%	32,064人 32.4%	39,308人 39.7%	171人 0.2%	233人 0.2%	99,040人
中学生	6,031人 11.1%	31,328人 57.9%	16,339人 30.2%	318人 0.6%	98人 0.2%	54,114人

〔警察庁交通局による〕

市内小中学生の自転車事故に関わる事故件数

平成27年	平成28年	平成29年
21件	22件	18件

岡崎警察署による

市内においても、自転車の事故件数はあまり減少せず推移している。これからも安全意識を高める必要がある。

自転車事故で高額な賠償となった事例

賠償額	事故の概要
9,521万円	男子小学生（11歳）が夜間、帰宅途中に歩行中の女性（62歳）と衝突。女性は頭蓋骨折等の傷害を負い、植物状態となって意識が戻らない状態になる。 神戸地方裁判所：平成25年7月4日判決

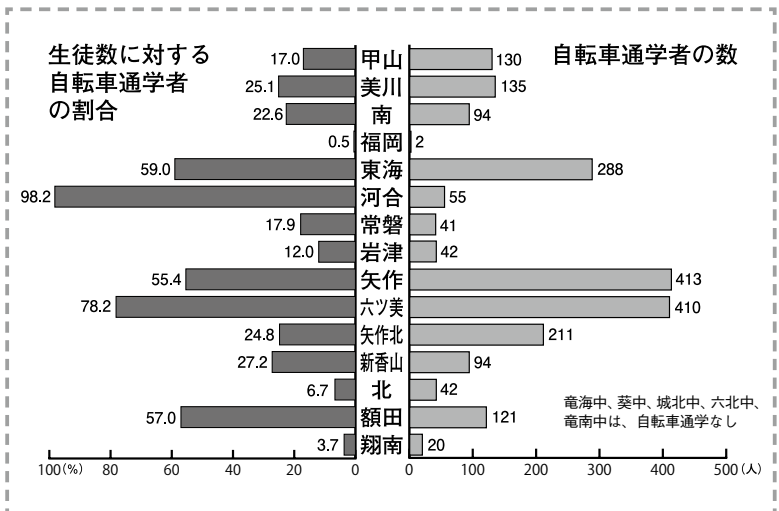
自転車の事故では加害者になることもある。最近では、高額な賠償金を要求されることもあり、保険加入について考える必要がある。

各小学校では、三年生の児童を対象に、南公園で交通安全教室を実施している。この他に、社会教育委員会主催の自転車教室で、自転車の乗り方や交通マナーについて指導する学校もある。また、自転車サークルや部活動で自転車の技術を高めている学校もある。

中学校では、今年度、全生徒数の二割に当たる二一〇人が登下校に自転車を利用している。遠い生徒では十km弱の道のりを通学する。生徒の安全を守るため、自転車業者に依頼し、専門的な視点で通学用自転車の安全点検を行っているところもある。また、警察と連携し、生徒の交通安全への意識を高める取り組みをしている学校もある。

学校と地域、警察が連携し、子供たちの交通安全に対する意識を高めている。

市内中学校の自転車通学者



岡崎地区子ども自転車大会実施種目

・学科試験 ・安全走行 ・技能走行
技能走行にはS字、デコボコ道走行などがある。



▲ 自転車部の技能走行 (大門小)

小・中学校の取り組み



▲ 自転車サークルでの練習風景 (竜美丘小)



▲ 岡崎警察署員による交通安全教室 (六ツ美中)



▲ 校内自転車教室の様子 (広幡小)

点検は、ブレーキやホーク (自転車の骨格部分) などの安全を確認できたらシールを貼り、不備があるものにカードをかけています。正しい情報を伝えたり、安全を保証したりすることで、事故を未然に防いでいます。

子供たちには安心して通学してほしいですね。



▲ 業者による点検 (南中)

自転車安全利用五則

- ① **自転車は、車道が原則、歩道は例外**
- ② **車道は左側を通行 (右側通行は禁止！)**
- ③ **歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行**
- ④ **安全ルールを守る**
 - ・ 飲酒運転の禁止
 - ・ 二人乗りの禁止
 - ・ 並進の禁止
 - ・ 夜間はライトを点灯
 - ・ 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- ⑤ **子どもはヘルメットを着用**

愛知県警察では、正しいルールを徹底し、事故を減らすため、自転車安全五則を守るよう啓蒙している。



●教育最新情報

○研究発表会・授業研究協議会

二学期には、小学校三校、中学校一校で研究発表と授業研究協議会が開催される。日々の授業改善に役立てる学びの機会として、多くの方に参加してほしい。

《研究発表会》

◆岡崎市立六ツ美南部小学校

十月十七日(水)

※市委嘱(H28~30)

「対話でつなぐ授業 一考察」

六ツ美南部小学校では、対話を軸として「心内対話から始まり、心内対話で終わる授業」「ペア対話、グループ対話、フリー対話等からクラス対話へつなぐことを基盤とした授業」を目指して研究実践に取り組んでいる。

学習課題に迫り、対話をつなげるために、意図的ペアリングやグループピング、教師



の出、構造的な板書、六ツ南コミュニケーションカードの作成などの工夫をしている。当日は、全学級で国語科、算数科の授業公開、授業者と語る会を行う。

◆岡崎市立六名小学校

十一月七日(水)

※市委嘱(H28~30)

「6つのワード」六名English

「英語に慣れ親しみ、よりよいコミュニケーションを図る子の育成」

六名小学校では、「Curriculum

(カリキュラム)」「Evaluation(評価)」「Play(遊び)」「Reaction(反応)」「Needs(必要性)」「Group(学習形態)」の6つのワードを手だてとして研究を重ねてきた。子どもたちが英語に慣れ親しむためにNeedsのある授業展開を考えたり、コミュニケーションを図るために、Reactionを推奨したりしている。

◆岡崎市立城北中学校

十一月十四日(水)

※市委嘱(H28~30)

「多様な価値観を認め合い、たくましく未来を生き抜く力を育む道徳教育」城北スタイルの授業を核として

城北中学校では、授業、評価の在り方、体験的な活動や教科との関連付けの三点に重点を置き研究を進めてきた。

授業を「城北スタイル」と名付け「考え、議論する道徳」にするために、生徒の実態や意識を大切にした導入や中心発問の工夫をしている。当日は、全学級で公開授業、授業を語る会を行う。

《愛知県家庭科教育研究会岡崎大会》

◆岡崎市立常磐小学校

十月三十一日(水)

《授業研究協議会》

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育―持続可能な社会の構築を視点とした『消費生活環境』の授業作り―」

環境に配慮した消費者とし

て、生活をよりよくしようとする工夫し、実践しようとする子の育成を目指している。

「消費生活・環境」の内容を、家庭科の他の内容や他の教科・領域等と関連させ、子供が生活から見出した問題を、見通しをもって解決していく授業作りを進めてきた。当日は、五・六年生の授業公開、研究発表、研究協議会を行う。

●表彰

◆全国中学校体育大会

○バレーボール男子

ベスト16 矢作中学校

○ソフトボール

出場 甲山中学校

○弓道女子

出場 額田中学校

○柔道男子60kg級

五位 東海中 竹市 裕亮

○卓球男子

出場 城北中 青山 貴洋

○相撲

出場 常磐中 酒部 源太

○ソフトテニス男子

出場 矢作中

○陸上競技 男子1000m

出場 竜海中 山下 侑河

○陸上競技 男子110mH

出場 六美北中 佐川 博也

○陸上競技 男子400m

準決勝進出

矢作中 伊藤 圭吾

○陸上競技 男子走幅跳

出場 六美中 鈴木 空也

○陸上競技 男子走高跳

決勝進出

城北中 田中 鉄馬

○陸上競技 女子1000mH

出場 矢作中 齋藤 未来

○陸上競技 女子2000m

出場 矢作中 中根 葵

○陸上競技 女子800m

出場 六美北中 小山 愛結

○陸上競技 女子走高跳

出場 竜海中 吉岡 夏希

○水泳競技 男子100m平泳ぎ

出場 福岡中 野村 美咲

○水泳競技 男子200m平泳ぎ

出場 新香山中 成瀬 叶来

○水泳競技 男子200m平泳ぎ

出場 新香山中 成瀬 叶来

○水泳競技 男子200m平泳ぎ

出場 竜南中 杉浦凜汰郎

○バレーボール男子

優勝 矢作中学校

○ソフトボール女子

二位 甲山中学校

○卓球男子個人

三位 城北中 青山 貴洋

○柔道男子55kg級

二位 六美北中 太田 隆介

○柔道男子60kg級

優勝 東海中 竹市 裕亮

○相撲

五位 常磐中 酒部 源太

○陸上男子

・400m

三位 矢作中 伊藤 圭吾

・走高跳

三位 城北中 田中 鉄馬

・走幅跳

六位 六ツ美中 鈴木 空也

・三年100m

二位 竜海中 山下 侑冴

・三年800m

三位 六ツ美中 田原 慧人

・五年100m

五位 南中 太田 悠斗

○陸上女子

・走高跳

四位 福岡中 野村 美咲

・六年100m

六位 六ツ美中 鈴木 菜美

・三年100m

八年 竜海中 土居 心愛

・二年100m

六位 南中 藤井 鈴奈

・一年100m

三位 翔南中 林 美希

・四年800m

四位 城北中 片山 心菜

・六年100m

六位 竜海中 壁谷 衿奈

・七位 矢作中 齋藤 未来

・800m

二位 六ツ美中 小山 愛結

・低学年4×100m

七位 城北中 池下優那・竹田萌菜

片山心菜・森山未都樹

○水泳男子

・100m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・700m平泳ぎ

七位 葵中 山崎倅太郎

・200m平泳ぎ

二位 竜南中 杉浦凜汰郎

・50m自由形

三位 矢作北中 谷 一輝

・200m自由形

五位 矢作中 石川 蒼士

・400m自由形

四位 竜南中 小林 夢翔

・200m自由形

○水泳女子

・200m自由形

六位 葵中 和田加菜子

・500m自由形

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

五位 矢作中 和田加菜子

・ソフトテニス

○陸上女子総合

二位 竜海中 学校

○陸上男子

・走高跳

優勝 城北中 田中 鉄馬

・走幅跳

二位 六ツ美中 鈴木 空也

・三年100m

優勝 竜海中 山下 侑冴

・110mH

二位 六ツ美中 田原 慧人

・400m

三位 六ツ美中 佐川 博也

・800m

優勝 竜海中 杉田 晃大

・1500m

三位 六ツ美中 玉木 裕真

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

三位 六ツ美中 伊藤 圭吾

・1500m

・4×100mR

二位 竜海中

・100m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

・200m平泳ぎ

優勝 新香山中 成瀬 叶来

銀賞

美合小学校

銀賞

城南小学校

銀賞

河合中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

美合小学校

銀賞

城南小学校

銀賞

河合中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

銀賞

北中学校

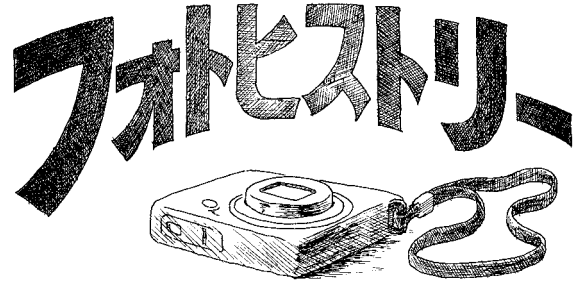
・カ
ツ
ト
美川中
深津勝巳

花崗岩貼りの土止め (昭和61年)

写真提供：竜南中学校

昭和六十一年四月、竜南中学校は市内十六番目の中学校として開校した。写真は、校地内を囲む花崗岩貼りの土止めを施工する様子である。運動場と道路、テニス・ハンドボールコートに使用され、総延長は三百メートル余にも及ぶ。学校建設に当たり、岡崎特産の花崗岩を市が特別に用意した。

市内には、花崗岩の他にも、地元産の杉や桧、間伐材を校舎や校内施設に利用している小中学校もある。地元で愛着をもち、故郷を誇りに思う子供たちを育成していきたいという思いの表れである。



ホープと呼ばれる時期は、決して長くはない。プロの世界では次々と現れるニューフェイスが注目を集め、世代交代という言葉がささやかれる。

中堅こそ、経験を生かして自分で考え、自身の奮起を求めなければならぬのかもしれない。

友達と力を合わせ、全力で力士に挑む。青空の下、相撲を全身で楽しむ子供たちの歓声が響く。

スポーツの秋。体を思いきり動かし、心も体も健やかに成長してほしい。健全な心身は、活力あるライフスタイルを築くことにつながる。

とホ

ツ

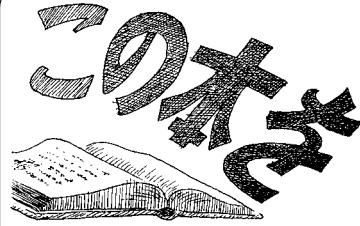
神無月



力士と勝負 (竜美丘小)

通学の安全のために協力する町の自転車店。安全を呼び掛ける警察や地域の方々そして教師の安全指導。交通安全の意識を高める連携が、事故を未然に防ぎ、多くの命を守り続ける。

多くの方に支えられながら、子供たちは安心して自転車を走らせる。



*トヨタ 現場の「オヤジ」たち 野地 秩嘉
新潮社 ￥740

心に残った一文

僕は自分の欠点を補うことが、教育の目的だと思っんです。

トヨタ自動車では、生産現場を束ねる組長、工長は尊敬をこめて「オヤジ」と呼ばれている。社員は、現場で教わって現場で育っている。教える際は、欠点に気付かせること、つまり仕事を基本通りにやっているかどうかにも主眼が置かれるという。仕事には厳しいながらもチームワークという温かさがあり、働き甲斐のある現場となっている。

「オヤジ」が語る「人の育て方」や「現場で働き続けることの喜び」からは、教えることは学ぶことだと、改めて心に刻むことができる。教育現場においても重なる部分がたくさんある。

- *地図で楽しむすごい愛知 都道府県研究会 洋泉社 ￥1,500
- *水ひと筋に生きる 河村 恭輔 致知出版社 ￥1,400
- *看る力 阿川佐和子 大塚 宣夫 文藝春秋 ￥780

藤川小 片桐 徹